

1. はじめに

ここでは具体的に高齢者に、色紙を用いてインテリアの色彩構成をしてもらうことにより、色彩計画のされている施設利用者とされていない施設利用者の色彩に対する反応を求め生活環境における色彩についての評価の仕方の違いを求めることを目的とした。

2. 色彩構成実験の概要

高齢者が「居心地がよい」と感じるように、部屋の床の色及び家具の色とそこで着てみたい服の色を色紙の中から選択して台紙のロビー平面図に貼付させた。51色の色紙には予め平面図に対応した縮尺の椅子・テーブル・服などを印刷しておいた。被験者はその1と同じ施設の利用者255人である。デイサービスのカリキュラムに実験を組み込んでもらった施設についてはグループ毎に説明した後一斉に、その他の施設はひとりずつ説明しながら実験した。色彩構成実験を先行させ、後日(その1)の聞き取り調査を行なった。

3. 結果及び考察

高齢者は室内の床の色彩と椅子の色の関係を最も関連づけて計画していた。しかし、服装の色は室内の色と無関係に選ばれていた。因子分析結果によれば、高齢者による快適な室内の色の評価は16の因子で成り立っていた。床の色はライトグレイッシュトーンの黄味または赤味をもつ暖色系と、ペールトーンの暖色系の3因子であった。椅子の色は主にダルトーンの木目調と暖色のペールトーンの2因子であったが、他の5因子にも分散していた。なお、本研究は(財)大阪ガスグループ福祉財団の助成による研究の一部である。